

静岡市埋蔵文化財調査報告

# 駿府城跡 IV

(三ノ丸堀・私学会館地点発掘調査報告書)



2005

静岡市教育委員会





## 例 言

1. 本書は、平成16年度私学会館ビル建設に伴う発掘調査として、平成16年5月17日から平成16年6月11日まで実施した、静岡市追手町9番26号に所在する駿府城跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、静岡県私学振興会から委託を受けた静岡市教育委員会（社会教育課）が調査主体となり実施した。
- 調査担当者 山本宏司（社会教育課）
3. 石垣の写真測量は ㈱フジテクノに、石材調査はバリノ・サーヴェイ側に委託して実施した。
4. 資料整理、遺物の実測、トレースは整理作業員及び図化作業員が行い、写真撮影は山本が行った。
5. 本書の執筆、編集は山本が行った。
6. 調査資料は、すべて静岡市教育委員会社会教育課が保管している。

## 凡 例

1. 本文及び実測図に記した高度は、海抜高度をもって示した。
2. 実測図中の方位は座標北を示す。
3. 調査グリッドは、駿府城跡発掘調査用のものを使用している。
4. グリッドは駿府城跡を200mごとに地区割りし、その中を20m方眼に区切り、名称は、北東のポイント名により呼称し、グリッド内を下図のように10mごとに細分している。

A-1 グリッド

|   |   |
|---|---|
| c | a |
| d | b |

## 目 次

### 例 言 凡 例 目 次

|                  |    |
|------------------|----|
| I 調査に至る経緯と調査経過   | 1  |
| II 遺跡の立地と環境      | 2  |
| III 調査の成果        | 3  |
| 遺構について           | 3  |
| 遺物について           | 7  |
| 駿府城跡(三ノ丸)の石垣石材分析 | 8  |
| 総括               | 16 |
| 遺物挿図             | 7  |
| 写真図版             | 18 |

## I 調査に至る経緯と調査経過

駿府城三ノ丸は、官庁や学校などの公共施設が多く存在し、一部に民間のビルや住宅が建ち並んでいる状況である。最近では、建物の建替えによる発掘調査件数も多い。今回の発掘調査は、静岡市追手町に存在する駿府城三ノ丸堀内に建てられている私学会館ビルの建替えの照会があり協議を進めた結果、文化財の保護にご協力をいただき、三ノ丸堀石垣部分はそのまま保存してビルを建設することとなった。このため、発掘調査は、建物基礎部分の堀底と石垣部分を中心として行うこととなった。

調査方法は、まず建設工事に合わせて重機により堀の埋め土部分を掘削してから調査区（1トレンチ、2トレンチ）を設定して発掘調査に移った。

まず、調査は、5月17日に1トレンチの調査を開始して石垣前面で三ノ丸堀の状況を確認し、同時に石垣の清掃を行った。次に、2トレンチの調査に移り、堀底や土の堆積状況を確認し、最後に写真測量により石垣の状況を記録し、6月11日に現地調査を終了した。



- |              |          |          |             |
|--------------|----------|----------|-------------|
| 1 駿府城跡       | 2 駿府城内遺跡 | 3 東草深遺跡  | 4 静岡高校校地内遺跡 |
| 5 賤機山古墳群     | 6 西千代田遺跡 | 7 谷津山古墳群 | 8 柚木瓦窯跡     |
| 9 長沼遺跡       | 10 曲金北遺跡 | 11 曲金B遺跡 | 12 曲金A遺跡    |
| 13 小鹿杉本堀合坪遺跡 | 14 豊田遺跡  | 15 小黒遺跡  | 16 八幡山城跡    |
| 17 八幡山古墳群    |          |          |             |

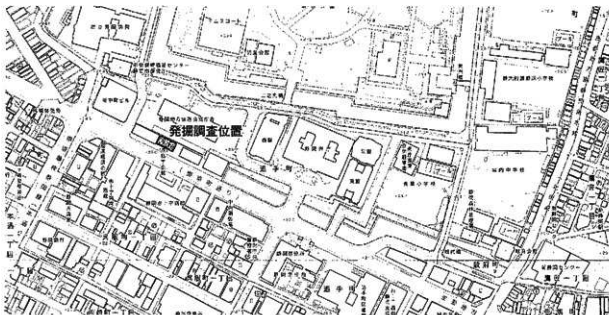
第1図 周辺遺跡分布図

## Ⅱ 立地と環境

安倍川の流によって形成された扇状地として発達した静岡平野では、中世以前には、流路が平野内を幾筋かに分流して流れていたため、たび重なる洪水に悩まされていたが治水工事によりほぼ現在の流れとなった。駿府城は、静岡平野の中でも最も標高が高い位置である扇状地の扇頂部に造られている。現在でも西の賤機山側では標高が約 25 m であるが、水落付近は標高約 20 m となっており約 5 m の差がある。調査地点付近の現在の標高は約 23 m である。駿府城の築城にあたってはこの標高差を平坦にするように大規模な造成がなされているようである。

駿府城の存在する地点は、歴史的にも非常に重要な場所となっている。発掘調査によって、三ノ丸城内小学校地点では、弥生時代にまで遡る遺構が確認されています。また、賤機山丘陵の先端には賤機山古墳が存在し、周郭品等から有力者の古墳と考えられています。これに続く時代でも、国府が周辺の一帯の地域に存在したことが推定されるなど、駿河の国の中心地としての役割を果たしていました。

中世の駿府は今川範国が 1338 年（建武 5）守護職に任ぜられて以後今川氏の支配するところとなり、やがて駿府館が築かれ周辺には家臣の屋敷も建ち並び駿府の町は繁栄していった。徳川家康は、1549 年（天文 18）～1560 年（永禄 3）まで人質としてこの駿府で暮らしている。1568（永禄 11）年今川氏真の時、甲斐の武田信玄に攻められその町並み等は焼失したと伝えられている。以後武田氏が支配することとなるが、1582 年（天正 10）には家康が武田軍を破り駿府に入り、1585 年（天正 13）には駿府城の築城を開始している。この時の駿府城は現在のものとは一回り小さい規模と考えられているが詳細は不明な点が多い。1590 年（天正 18）の小田原攻め以降家康は江戸に移り豊臣秀吉方の中村一氏が駿府に入り、関ヶ原の戦い以降は内藤信成が入っている。1605 年（慶長 10）將軍職を秀忠にゆずり、駿府城を隠居城として 1607 年（慶長 12）から城の修築を開始し、三重の堀を廻らし、5 層 7 階の勇壮な天守を持った駿府城を完成させた。家康の暮らした駿府では江戸との二元政治が行われることとなった。1616 年（元和 2）の家康の死後は徳川頼宣、徳川忠長が城主となるが、1633 年（寛永 10）以降は城代がおかれ、幕府の直轄地となった。明治時代になると建物は払い下げられ、1896 年（明治 29）には本丸堀を埋め立て歩兵 34 連隊を誘致した。第 2 次世界大戦後は本丸、二ノ丸は駿府公園となり、三ノ丸は大部分が学校等の公共用地となって現在に至っている。



第 2 図 調査地点位置図

### Ⅲ 調査の成果

#### 1. 遺構について

今回の調査場所は駿府城跡の外側を巡る三ノ丸堀の南側部分にあたる。南側部分は、駿府城の正面でもあり、調査地点は、四足門の東側にあたる場所である。このあたりは江戸時代から百間堀と呼ばれ、駿府城の正面としての威風をただよわせていたようである。なお、今回の調査区は、1899年（明治32）に埋め立てられ、建物が建てられていた場所である。調査は、三ノ丸堀に直行するトレンチを2ヶ所設定し、重機による掘削の後、堀底及び石垣の調査を行った。

##### 三ノ丸堀

三ノ丸堀の覆土は、1トレンチ、2トレンチ共にほぼ同じ堆積であり、1層は、堀の堀土で、礫を多く含む土であることから、安倍川から土砂を運び埋め立てられた可能性が高い。2層は明褐色土、腐植土で、粘性は多少あるがしまりは少ない。3層は、暗灰色土、粘性の強い粘土層である。しまりもある。4層黒灰色土粘性、しまり共に強い粘土層。5層暗灰色土、粘土層で、粘性、しまり共に強い。6層褐色礫層で、三ノ丸堀の堀底を形成する礫層である。しまりが強い。7層は暗灰褐色土で、粘性が多少ある土である。10cm～20cm大の石を多く含むことから、石垣崩壊時の裏ゴメ石と考えられる。8層暗灰褐色土で、破碎した礫片を多量に含む土であることから、石垣崩壊による積み直しで生じた破碎礫の可能性が高い。9層は褐色礫層で、砂～1cm大の小石で構成されている。しまりも少ない。

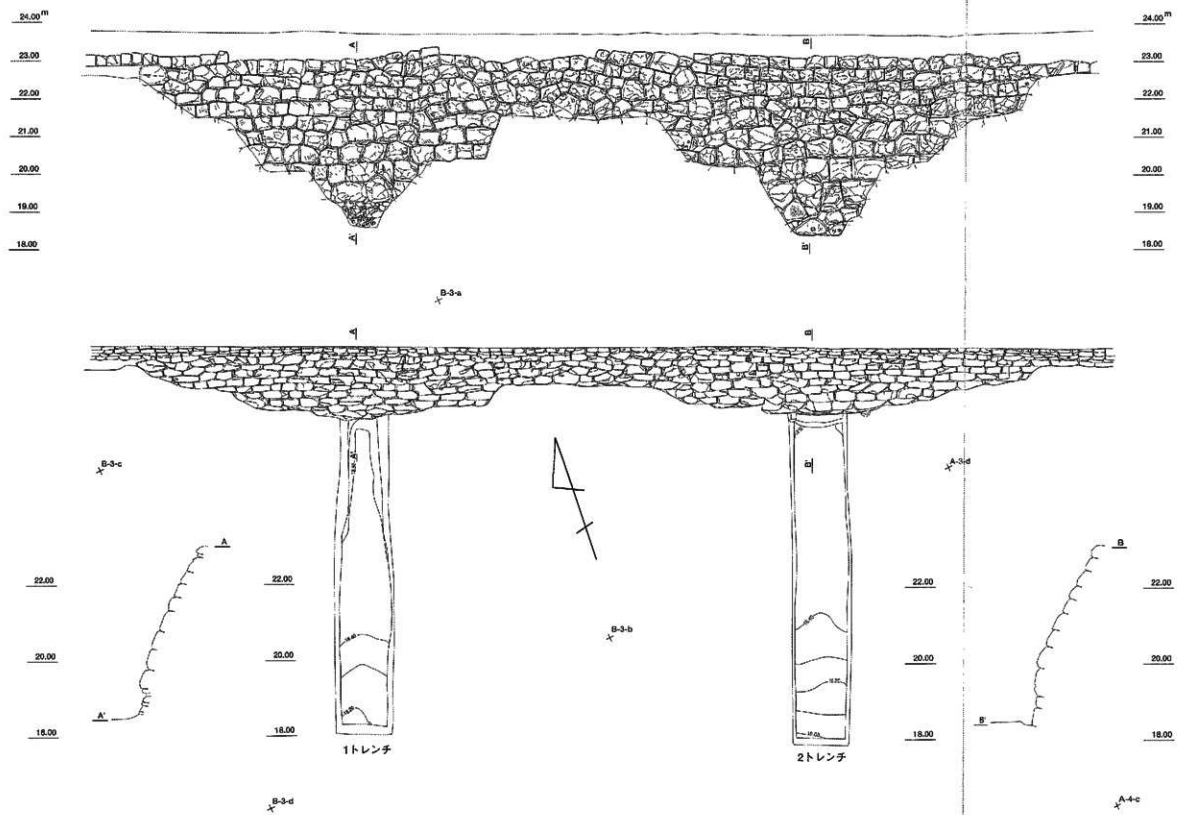
堀底までの深さは、1トレンチの現況地表面から測ると、石垣付近で、4m、南側で、4.4m、2トレンチでも、現況地表面から、石垣付近で、4.2m、南側で、4.6m、となっている。標高値と比較しても、1トレンチの石垣付近は、18.6m南側が18.2m、2トレンチの石垣付近は18.4m、南側が18mと南側及び東側へ緩やかに傾斜している。堀底は5cmから10cmの礫を多く含む礫層で、しまりが強い土となっている。

##### 三ノ丸堀石垣

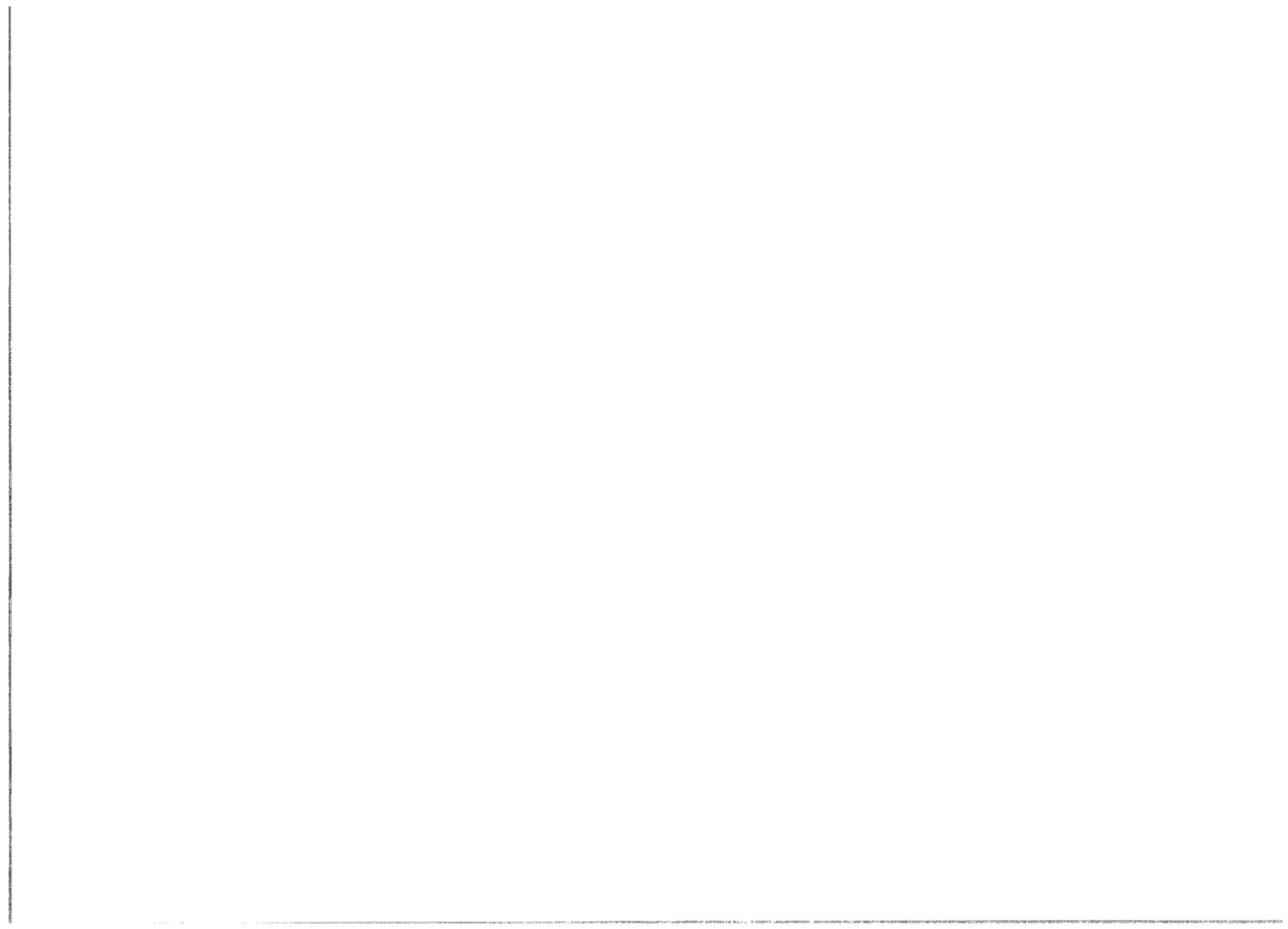
今回の調査では、石垣の全様を確認できたのはトレンチ部分だけであった。地表面上の石垣は2～3段しか存在しないが、築城当時は三ノ丸周縁が土手状になっていることから、さらに数メートル高かったものと推測される。

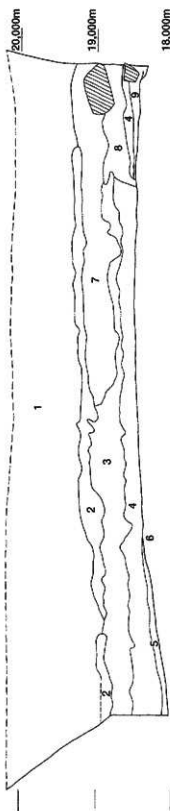
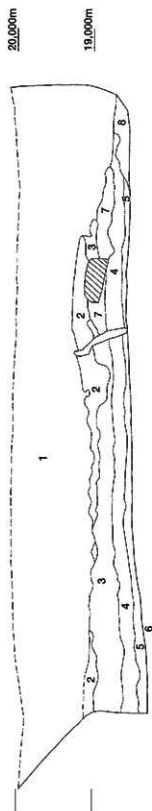
まず、1トレンチ部分の石垣は、高さ約4mで、最下部は裏こめ石程度の石が充填されている。石垣の積み方は、切り出した石の目地をきれいに揃えた積み方（いわゆる切り込みハギ）で構成されている。下方から3～4段は比較的大きな石で積まれているが、上方は下方に比べると小さな石で、横目地をそろえた積み方となっており、石垣の積み替え時期の差によるものであろう。いずれも、石の表面は平坦に整形せず、影らみをそのまま残しておりやや粗い仕上げのように見受けられる。

2トレンチ部分は、石垣根石部分1～2段で、石を粗割して平坦部分をつくり、この平坦部分を正面にしてそのまま積み、隙間に間詰石を充填する積み方（いわゆる打ち込みハギ）が確認できる。この部分には、◎印の石垣刻印が2ヶ所見られる。この上方は1トレンチ同様に3～4段を比較的大きな石の切り込みハギで、その上は小さな石の切り込みハギとなっている。上方の小さな石部分は、V字型に石垣の積み直し部分が存在しており、最下段が、慶長築城当初の石垣で、その後2度積み直されていることが推測される。2トレンチ石垣前方の堀底部分では石垣の掘り方と考えられる掘り込みが確認されている。



第3図 発掘調査実測図 (縮尺1/100)





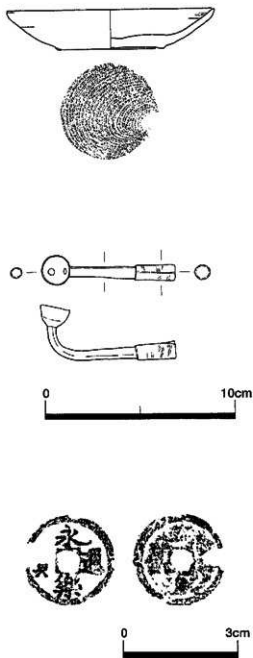
- 1層 礫層土
- 2層 明褐色土
- 3層 暗灰色土
- 4層 黒灰色土
- 5層 暗灰色土
- 6層 褐色礫層
- 7層 暗灰色土
- 8層 暗褐色土
- 9層 褐色礫層



第4図 トレンチセクション図

## 2. 遺物について

今回の調査では陶磁器の小片と煙管の雁首、かわらけ、銭貨などが出土したが図示できるものは量的には非常に少ない状況である。1のカワラケは、1トレンチ第4層の上面からの出土で、口径約11cm、器高約2.1cmである。体部の色調は、にぶい橙色を呈し、焼成は良好である。底面に糸切り痕が見られる。2は煙管の雁首で、1トレンチ第2層の下部からの出土である。全長約7.2cm首部には肩を有し、火皿の口計は約1.5cmで真鍮製と思われる。3は銭貨「永泰通宝」で三ノ丸堀の埋め土中からの出土となっている。外径約2.4cmの銅銭である。



第5図 出土遺物

### 3. 駿府城跡三ノ丸堀の石垣石材について

バリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

これまでの駿府城三ノ丸堀石垣の発掘調査の成果から、石垣の最下部は慶長期、石垣の主体となる下部～上部は寛永12年（1635）の火災以降、最上部は現代という石積みの時期が考えられている。使用石材の種類については、これまでの石材調査の結果から、最下部が長尾川流域の凝灰質砂岩、下部～上部が齋藤川流域の砂岩を主材としていることが明らかとなっている。

今回調査を行う石垣には、この他に幕末安政の地震（1854）以降に積み直した部分があると考えられており、使用石材にその違いが反映されているかどうか課題となっている。このような状況を踏まえ、今回、肉眼による石材鑑定を行い、その結果遠方から搬入された可能性があると考えられる石材については、岩石薄片を作製し、顕微鏡下で詳細な観察を行った。

#### 1. 試料

肉眼観察を行った石垣は、三ノ丸堀の南側部分にあたる赤十字病院向かいの石垣である。観察を行った石材の総個数は、303点である。

#### 2. 分析方法

##### (1) 肉眼鑑定

野外用のルーペを用いて構成鉱物や組織の特徴を観察し、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。

##### (2) 石薄片作製観察

肉眼観察を行った石材のうち、2試料を選別し、石材の一部をハンマーで砕いてサンプリングした。ダイヤモンドカッターにより試料を22×30×15mmの直方体に切断して薄片用のチップとした。そのチップをスライドガラスに貼り付け、#180～#800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ0.1mm以下まで研磨した。さらに、メノウ板上で#2500の研磨剤を用いて正確に0.03mmの厚さに調整した。スライドガラス上で薄くなった岩石薄片の上にカバーガラスを貼り付け完成とした。薄片は、偏光顕微鏡下において観察・記載を行った。

#### 3. 結果

##### (1) 肉眼観察

肉眼観察の結果は表1に示した。肉眼観察により同定された石材の種類は、ドレライト(Do)、安山岩(An)、フォノライト(Pho)、玄武岩(Ba)、変質デイサイト(DaA)、凝灰角礫岩(Tb)、凝灰質砂岩(Tfs)、砂岩(Ss)、礫岩(Cg)、輝石安山岩(AnP)、多孔質安山岩(AnV)およびデイサイト(Da)である。

岩種別には、砂岩が60.7%と過半数を占めており、次いでデイサイト18.5%、輝石安山岩4.3%、玄武岩3.6%、安山岩3.3%という順になっている。その他の石材の使用率は、3%以下である。群別には、1群9.6%、2群1.0%、3群63.0%、4群23.4%、5群23.4%となっており、砂岩を主体とする3群が卓越している。群の分類については、後述する。

##### (2) 薄片観察

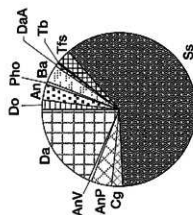
顕微鏡観察に際しては下方ポラーおよび直交ポラー下で撮影した写真を添付した。顕微鏡観察により同定した岩石名を表2に示す。以下に各試料の鏡下観察結果について述べる。

|    | 群別    |     |     |     |     |     |     |     |      |     |      | 合計  |      |       |
|----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|------|-------|
|    | 1 群   |     |     |     | 2 群 |     | 3 群 | 4 群 |      | 5 群 |      |     |      |       |
|    | Do    | An  | Pho | Ba  | DaA | Tb  | Tfs | Ss  | Cg   | AnP | AnV  |     | Da   |       |
| 紫石 | (個数)  | 6   | 10  | 2   | 11  | 2   | 1   | 9   | 184  | 7   | 13   | 2   | 56   | 303   |
|    | (%)   | 2.0 | 3.3 | 0.7 | 3.6 | 0.7 | 0.3 | 3.0 | 60.7 | 2.3 | 4.3  | 0.7 | 18.5 | 100.0 |
|    | (群別%) | 9.6 |     |     |     | 1.0 |     | 3.0 | 63.0 |     | 23.4 |     |      | 100.0 |

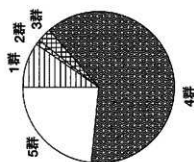
表 1 石材鑑定集計結果一覧表

略号

Do: ドレライト An: 安山岩 Pho: フォノライト Ba: 玄武岩 DaA: 変質デイサイト Tb: 凝灰角礫岩 Tfs: 凝灰質砂岩  
Ss: 砂岩 Cg: 礫岩 AnP: 輝石安山岩 AnV: 多孔質安山岩 Da: デイサイト



グラフ 1 野府城三ノ丸における築石の石材構成 (岩種別)



グラフ 2 野府城三ノ丸における築石の石材構成 (群別)

| 試料番号 | 岩石名（肉眼観察） | 岩石名（鏡下観察）     | 分類 |
|------|-----------|---------------|----|
| No.1 | 輝石安山岩     | 斜方輝石単斜輝石安山岩   | 5群 |
| No.2 | デイサイト     | 斜方輝石単斜輝石デイサイト | 2群 |

表2 薄片観察結果

# 1) No.1 AnP

岩石名：斜方輝石単斜輝石安山岩

岩石の組織：インターサタル組織（intersertal texture）

## 斑晶

斜長石：中量存在し、粒径2.10～0.3mmの半自形～他形で厚板状～粒状を呈し、集片双晶、累帯構造および蜂の巣状組織が発達する。最大対称消光角は43°を示す。

単斜輝石：微量存在し、粒径1.19～0.3mmの他形で柱状～粒状を呈し、淡緑色を示す。双晶を示すものや、斜長石と共生して集産状組織を形成するものがある。

斜方輝石：きわめて微量存在し、粒径0.85～0.3mmの他形で柱状を呈し、淡褐色～淡緑色の多色性を示す。

## 石基

クリストバライト：微～少量存在し、粒径最大1.40mmの他形で不定形状～屋根瓦状を呈し、石基や孔隙中に晶出している。一部、長柱状を呈するトリディマイト様の鉱物を置換して仮像を形成しているものもある。

斜長石：中量存在し、粒径最大0.3mmの半自形～他形で柱状～板状を呈し、弱い集片双晶が発達する。配向性は認められない。

単斜輝石：少量存在し、粒径最大0.3mmの他形で柱状～不定形状を呈し、淡緑色を示して石基斜長石の粒間に散在する。

斜方輝石：きわめて微量存在し、粒径最大0.3mmの他形で柱状を呈し、淡褐色～淡緑色の多色性を示す。

不透明鉱物：微量存在し、粒径最大0.35mmの他形で粒状～不規則粒状を呈し、石基中に広範に散在する。

火山ガラス：少量存在し、無色を示して石基鉱物の粒間を充填する。孔隙の周辺部においては、脱ガラス化しており、直交ポーラー下において、弱い偏光を示す。

## 孔隙

少量存在し、孔隙最大3.2mmで不定形状を呈して点在する。孔隙の壁に沿ってクリストバライトが晶出している。

# 2) No.2 Da

岩石名：斜方輝石単斜輝石デイサイト

岩石の組織：斑状組織（porphyritic texture）

## 斑晶

斜長石：中量存在し、粒径3.2～0.3mmの半自形～他形で柱状～板状を呈し、集片双晶および累帯構造が発達する。最大対称消光角は、35°を示し、ラブラドライト質である。

単斜輝石：少量存在し、粒径2.62～0.3mmの他形で不規則柱状を呈し、双晶や累帯構造が発達する。

斜方輝石：微量存在し、粒径1.64～0.3mmの他形で柱状～不規則柱状を呈し、淡緑色～淡褐色の多色性を示す。結晶表面部に雲母鉱物による粘土鉱物化が認められる。

不透明鉱物：微量存在し、粒径0.52～0.3mmの他形で粒状～不定形状を呈し、輝石類と接して分布する。

## 基質

石英：中量存在し、粒径最大0.26mmの他形で不定形状を呈し、斜長石と共生して石基を構成する。

斜長石：中量存在し、粒径最大0.3mmの他形で柱状～不規則粒状を呈し、集片双晶が発達する。結晶内部にきわめて微細なミルメカイトが発達している。

単斜輝石：微量存在し、粒径最大0.3mmの他形で柱状～不規則柱状を呈し、淡緑色を示す。細粒なものは、粘土鉱物によって交代されている場合が多い。

斜方輝石：きわめて微量存在し、粒径最大0.3mmの他形で柱状を呈し、淡緑色～淡褐色の多色性を示す。

輝石：きわめて微量存在し、粒径最大0.17mmの他形で柱状～粒状を呈し、斑晶鉱物に包有されている。

不透明鉱物：微量存在し、粒径最大0.3mmの他形で粒状～不規則粒状を呈し、石基中に散在する。

## 変質鉱物

雲母鉱物：少量存在し、粒径最大0.15mmの他形で繊維束状を呈し、褐色を示して輝石類の斑晶や石基の苦鉄質鉱物を交代している。

緑泥石：きわめて微量存在し、粒径最大0.07mmの他形で粒状を呈し、石基中に点在する。

## 孔隙

微量存在し、孔径最大0.5mmで不定形状を呈して点在する。粘土鉱物の溶脱孔である。

## 4. 考察

蔵府城の石垣に使用されている石材は、これまでの調査の成果から、下記の4群に分類されている。

1群：大崩海岸から藻科川右岸にいたる地域に分布するアルカリ塩基性岩類

2群：駿機山以北に分布するデイサイト・変質凝灰角礫岩・軽石凝灰岩

3群：長尾川流域に分布する凝灰質砂岩

4群：藻科川中流域に分布する砂岩

これらの4群の地質学的な背景および原産地調査を踏まえた石材産地の検討結果を以下に示す。

### (1) 1群

アルカリ斑れい岩・アルカリ粗粒玄武岩・粗面玄武岩・アルカリ玄武岩などの塩基性岩類は静岡市西方から焼津市にわたる地域に分布する高草山層群大崩累層（杉山ほか、1982）に属する一連の火成岩類である。ただし、地層名については混乱があり、その後、柴（1987）、山本・島津（1994）は大崩累層を高草山累層と再定義している。本累層を構成する火山岩類はアルカリ玄武岩・粗面玄武岩・粗面安山岩・および粗面岩などで、アルカリ粗粒玄武岩およびアルカリ斑れい岩に貫入されている。また、この一連の火成岩類には二次的にプレーナイト（ぶどう石）・沸石鉱物に変質鉱物として生じている。杉山ほか（1982）によれば変質鉱物は埋没変成作用によってできたもので上位では沸石相、下位でプレーナイト（ぶどう石）－パンベリー石相がみられるとされている。少なくとも沸石鉱物の多い試料は大崩海岸から高草山に分布する比較的上位の火成岩類であることを示唆している。なお、本地区のアルカリ岩は海洋島の火山岩に類似すること（島津、1984）、および枕状溶岩とハイアロクラスタイトが多く観察され、溶岩類は海底火山活動の産物であると考えられる。山本・島津（1994）はフィリピン海プレート内の海洋島が北上して本州弧に衝突し、現在の位置関係になったと推定している。また、一連のアルカリ岩類の分布は、本州太平洋側では本地域に限られ、他地域にはみられない。

### (2) 2群

デイサイト・変質凝灰角礫岩・軽石凝灰岩はいずれも高草山層群竜爪山累層（杉山ほか、1982）に属する酸性岩類と推定される。杉山ほか（1982）によると竜爪山累層のデイサイトが確認できる露頭は非常に少な

く、しばしば頁岩のパッチを含むデイサイト質凝灰角礫岩や凝灰質砂岩を挟むとされている。デイサイトは斑状組織を有し、斜長石と単斜輝石を斑晶とする。巖府城石垣のデイサイトも同様の特徴を有していることからデイサイトの原産地は竜爪山累層であることは確実で、同岩の分布から幾帳山以北である可能性が高い。

### (3) 3 群

暗緑灰色～黒褐色を呈する凝灰質砂岩で、安山岩片・角閃石・輝石類などの火山岩起源の物質を多く含み、スメクタイト化・緑泥石化が著しい特徴を有している。瀬名～平山の長尾川流域に分布する新第三系後期中新統静岡層群の砂岩卓越層（Z1 層上部）（杉山・下川、1990）を原産地としている。

### (4) 4 群

灰白色のアルコース質砂岩については、藻科川中流域に分布する瀬戸川層群吉津累層の砂岩と推定され、小瀬戸地区に当時の採石跡が知られている。小瀬戸地区を中心とする砂岩産地の試料と巖府城石垣試料とを比べると、砕屑片としての鉱物片・岩片の組み合わせと量比、変質鉱物の種類などにやや相違がみられるが、天然物質としての許容範囲内にあると考えられ、この種の砂岩は藻科川流域に分布する瀬戸川層群吉津累層を原産地層とすると判定される。

### (5) 5 群

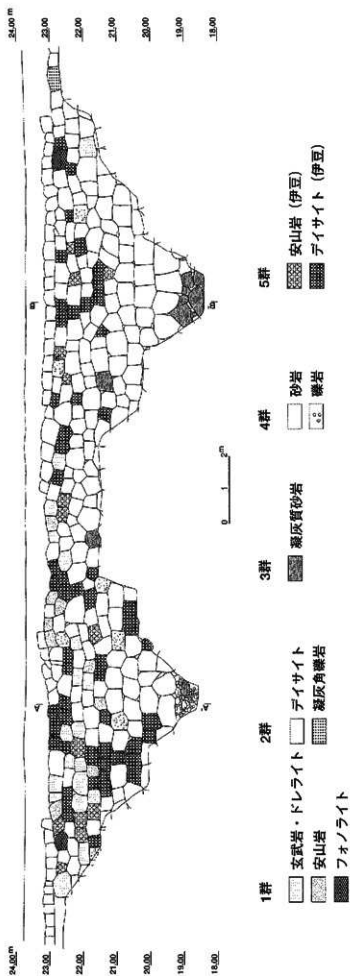
石垣を構成する石材の大部分は、上記の4つの群に分類されるが、今回観察を行った石垣にはこれらとは明らかに岩相を異にする石材が含まれていた。それらは、伊豆半島の火山群に由来すると考えられる輝石安山岩、多孔質安山岩およびデイサイトである。このうち、輝石安山岩およびデイサイトについては、各1点ずつ薄片を作製し、鏡下観察を行っている（表2）。観察記載については、前述の通りであるが、両者とも変質鉱物が少なく、新鮮な火山岩の特徴を有している。静岡市周辺にはこのような岩石を有する火山は分布していないため、遠方から運ばれてきた石材と考えられる。最も近い火山の分布地域としては伊豆半島があり、この地域に由来する可能性が高いと考えられる。輝石安山岩は主に東伊豆地域に分布するが、鏡下における構成鉱物の違いから、今回の試料は江戸城の築城石として有名な神奈川県足柄下郡真鶴町の安山岩（新小松）とは異なる。また、デイサイトは、輝石の斑晶を含み、完晶質な石英の特徴を有することから、静岡県沼津市江浦塗のデイサイトと判定される。変質作用を被っている2群の竜爪山累層のデイサイトとは明らかに岩相を異にしている。このようなことから、今回調査を行った石垣においては、前述した1～4群に加え、伊豆半島系石材と分類される5群を設定することとする。

### (6) まとめ

今回観察を行った各岩種がどの群に属するかは、鏡下観察の結果も踏まえて表1に示した。1群に属する岩石は、ドレライト、安山岩、フォノライトおよび玄武岩であり、2群は変質デイサイトおよび凝灰角礫岩、3群は凝灰質砂岩、4群は砂岩および礫岩、5群は輝石安山岩、多孔質安山岩およびデイサイトである。

石垣を岩石の種類毎に分類し、図3に示した。慶長期に造られたとされる石垣最下部は、3群の凝灰質砂岩が卓越する。石垣の主体となる下部～上部は、4群の砂岩を主体とするが、5群のデイサイトや輝石安山岩もかなり多く散在されている。1群および2群の石材の使用は、量的には少なく、上部付近に配置されている。

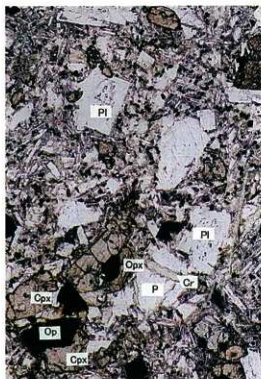
これまでに調査を行った三ノ丸堀の他の石垣においては、下部～上部の石材は、4群の石材を主材としており、5群の石材は認められていない。これらのことから、当初の所見通り、5群の石材は、幕末安政の地震（1854）により崩れた箇所への補修用石材として使用された可能性がある。5群の石材は、石垣の下から2段目より使用されている箇所もあり、その石材の分布から地震により崩れた箇所を推定できると考えられる。他の石垣においても、5群の石材の使用が認められるかどうかは非常に重要であり、その使用状況を調べることで安政の地震による石垣の崩落箇所の全容を把握できると考えられる。



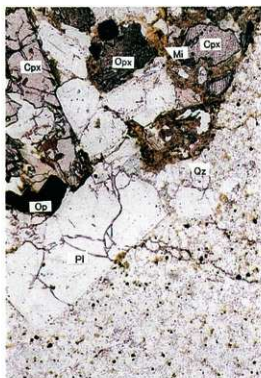
第6図 駿府城三ノ丸堀石垣の石材分布図

#### 引用文献

- 柴 正博 1987, 富士川谷の層序と地質構造 構造地質, 32, 19-35
- 島津光夫 1984, 南部フォッサマグナ地域の新生代火成活動と島弧会合問題 地質学論集, 24, p.233-249
- 杉山雄一・下川浩一・坂本 亨・秦 光明 1982, 静岡地域の地質 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, 82p
- 杉山雄一・下川浩一 1990, 清水地域の地質 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 地質調査所, 103p
- 山本玄珠・島津光夫 1994, 静岡県, 高草山地域のアルカリ岩類の地球科学的研究 岩鉱, 89, p.245-258



1. No.1 AnP 輝石安山岩



2. No.2 Da デイサイト

0.5mm

Qz:石英、Cr:クリストバライト、Pl:斜長石、Mi:雲母鉱物  
Opx:斜方輝石、Cpx:単斜輝石、Op:不透明鉱物、P:孔隙  
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

#### 4. 総括

今回の発掘調査では、三ノ丸堀の石垣を検出したが、根石部分から地表面までを調査できたのは、トレンチ部分だけである。

1 トレンチ部分では、最下部の根石も含めた石垣の積み直しが実施されたことにより、打ち込みハギにより築かれた石垣は存在していないが、2 トレンチ部分では下段から、上段にかけて駿府城石垣の築城技法の変遷が非常に明確に確認できる。

2 トレンチ下段部分の石垣は、石材調査によると、静岡市内を流れる長尾川上流域産の凝灰質砂岩による打ち込みハギとなっている。石材は丸い石がそのまま利用されており、長尾川流域の転石を用いて築かれていると考えられる。中段の石垣は、静岡市西部を流れ、安倍川に合流する嵩科川流域の小瀬戸地区を中心とした地帯の砂岩を使った、切込みハギとなっている。小瀬戸の石切り場には、現在も大きな岩盤が露出し、矢穴の列が見られることから、江戸時代のいずれかの時期に、切込みハギとして積み直される際に使用された石切り場と思われる。さらに、上段（おおむねV字状に積み直された部分より上）の石垣は、全体的に石材の大きさが小さくなり、石材も小瀬戸周辺の砂岩と、伊豆産と思われる安山岩やデイスaitoにより構成されている。このことから、伊豆産の石材は、慶長の築城当初からは使用されておらず、むしろ、江戸時代後期以降ではないかと推測されるが、1 トレンチの状況から、今後伊豆産の石材の使用開始年代の検討が必要となろう。

石垣の築造年代については、石垣石材の大きさや、積み方から推測すると、上段部分の石垣は、幕末期に近い時点以降の積み直しの可能性が高いと考えられることから、安政の地震後の積み替えではないだろうか。一方、中段の打ち込みハギから、切込みハギへの積み直しの具体的な時期は確定できない。また、三ノ丸堀覆土の第7層と第8層も石垣崩壊時に順に落ち込んだ上と考えられ、2回の石垣積み直しを示すものと思われる。なお、第8層に含まれる破砕された石材片は小瀬戸周辺産の砂岩と考えられる。

出土遺物については、今回の発掘調査による出土量は非常に少なく、図示したもの以外には、陶磁器の小片が数片出土したのみである。カワラケは、出土層位から江戸時代前半と考えられるが、煙管の雁首については、層位的には、江戸時代中であろうが詳細は不明である。

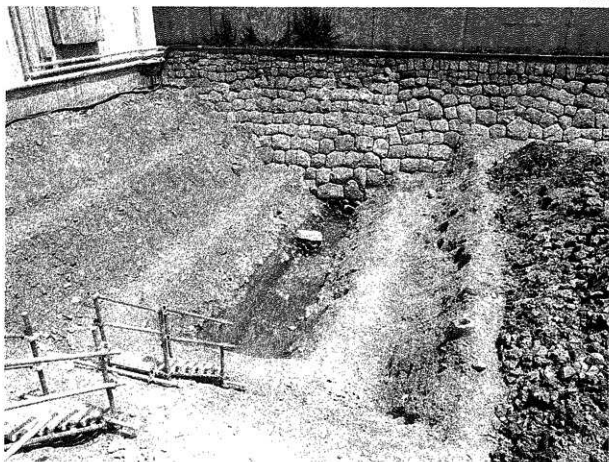
以上が調査成果である。最後になりましたが、今回の発掘調査や資料整理にご協力をいただいた方々にお礼申し上げます。

#### 参考引用文献

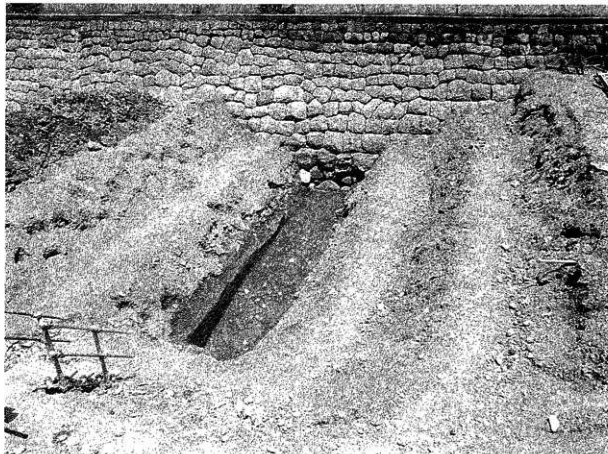
- |      |          |                                |                     |
|------|----------|--------------------------------|---------------------|
| 1983 | 静岡県教育委員会 | 「駿府城内埋蔵文化財発掘調査報告」              | 静岡県文化財調査報告第27集      |
| 1987 | 静岡県教育委員会 | 「駿府城三の丸跡発掘調査報告」                | 静岡県文化財調査報告第38集      |
| 1989 | 静岡市教育委員会 | 「駿府城跡三ノ丸」                      | 静岡市埋蔵文化財調査報告22      |
| 1994 | 静岡県教育委員会 | 「駿府城三の丸跡・駿府城内遺跡」               | 静岡県文化財調査報告第47集      |
| 1996 | 静岡市教育委員会 | 「駿府城跡Ⅰ 遺構編」                    | 静岡市埋蔵文化財調査報告36      |
| 1999 | 静岡市教育委員会 | 「大御所徳川家康の城と町」                  | 駿府城関連史料調査報告書        |
| 1999 | 静岡県考古学会  | 「駿府城をめぐる考古学」                   | 静岡県考古学会30周年記念シンポジウム |
| 2002 | 静岡市教育委員会 | 「駿府城跡Ⅱ、三ノ丸堀・顔賣ビル地点発掘調査報告書」     | 静岡市埋蔵文化財調査報告61      |
| 2002 | 静岡市教育委員会 | 「駿府城跡Ⅲ 遺構編 駿府公園再整備第3工区発掘調査報告書」 | 静岡県埋蔵文化財調査報告62      |

# 報 告 書 抄 録

|                  |                                         |       |         |                    |                    |                               |      |              |
|------------------|-----------------------------------------|-------|---------|--------------------|--------------------|-------------------------------|------|--------------|
| ふりがな             | すんぷじょうあと                                |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| 書 名              | 駿府城跡Ⅳ                                   |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| 副 書 名            | 三ノ丸堀・私学会館地点発掘調査報告書                      |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| 巻 次              |                                         |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| シリーズ名            | 静岡市埋蔵文化財調査報告                            |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| シリーズ番号           |                                         |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| 編 著 者 名          | 山本宏司                                    |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| 編 集 機 関          | 静岡市教育委員会                                |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| 所 在 地            | 〒420-8701 静岡市清水旭町6番8号 Tel. 0543-54-2525 |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| 発行年月日            | 西暦2005年3月25日                            |       |         |                    |                    |                               |      |              |
| ふりがな             | ふりがな                                    | コード   |         | 北緯                 | 東経                 | 調査期間                          | 調査面積 | 調査原因         |
| 所収遺跡名            | 所 在 地                                   | 市町村   | 遺跡番号    |                    |                    |                               |      |              |
| すんぷじょうあと<br>駿府城跡 | 静岡県静岡市追手町                               | 22201 | 142     | 34°<br>58′<br>37″  | 138°<br>22′<br>51″ | 2004.05.17<br>}<br>2004.06.11 |      | 私学会館<br>ビル建設 |
| 所収遺跡名            | 種 別                                     | 主な年代  | 主な遺構    | 主 な 遺 物            |                    | 特 記 事 項                       |      |              |
| 駿府城跡             |                                         | 江戸時代  | 堀<br>石垣 | 陶磁器<br>カワラケ<br>木製品 |                    |                               |      |              |



1トレンチ全景



2トレンチ全景



1 トレンチ石垣全景



2 トレンチ石垣全景



①三ノ丸堀内側石垣正面写真(数字の順に西～東)



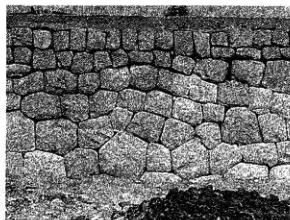
②



③



④



⑤



⑥

図版 4



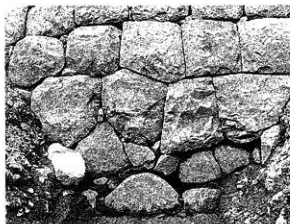
⑦三ノ丸堀内側石垣正面写真（数字の順に西～東）



⑧



⑨



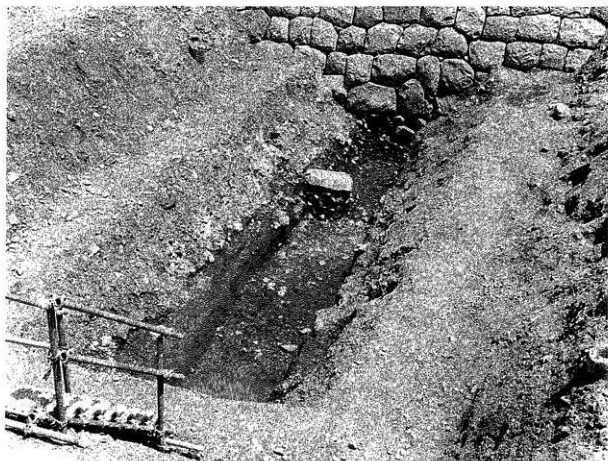
2 トレンチ最下段石垣状況



石垣刻印



石垣刻印



1 トレンチ三ノ丸堀発掘状況



2 トレンチ三ノ丸堀発掘状況



カワラケ



煙管（雁首）



銭貨（永楽通宝）

静岡市埋蔵文化財調査報告

## 駿府城跡Ⅳ

三ノ丸堀・私学会館地点発掘調査報告書

平成17年3月25日

編集・発行 静岡市教育委員会

印刷所 東海美術社

